



あいち
トリエンナーレ
2010

平成21年6月11日(木)

愛知県県民生活部文化芸術課

国際芸術祭推進室事業G

担当：中野、山口（トリエンナーレについて）

電話：052-971-6111 内線 724-692・693

愛知県美術館企画業務課企画業務G

担当：高橋、副田（展示作品について）

電話：052-971-5511 内線 724-320・327

現代アートが県庁に進出！

—現代美術作品を本庁舎玄関ロビー及び議事堂ロビーに展示します。—

現代美術を基軸に展開する「あいちトリエンナーレ2010（開催期間：平成22年8月21日（土）～10月31日（日））」の開催に向け、県議会及び県庁への来客や職員等に現代美術に親しんでいただくため、愛知県美術館所蔵の現代美術作品を県議会議事堂ロビー及び県庁本庁舎玄関ロビーに展示します。

1 展示開始日

平成21年6月15日（月）

2 設置場所・作品

① 場所：本庁舎1階正面玄関ロビー

作品：岡本敦生（彫刻）＋野田裕示（絵画）コラボレーション

「地殻－潜むかたち1」

制作年【1996年】

技法材質【白御影石、アクリル】

大きさ【W200×D54×H83cm】



② 場所：議事堂ロビー

作品：三沢厚彦（彫刻）「Animal 2008-01」（撮影：内田芳孝）

制作年【2008年】

技法材質【樟、油彩】

大きさ【W106×D302×H166.5cm】



3 今後の予定

愛知県公館等にも順次作品を設置します。



【作家及び作品について】

○岡本敦生（おかもと・あつお）

1951年6月11日広島県生まれ。1977年多摩美術大学大学院彫刻科修了。早くから国内外の彫刻シンポジウムに参加し、野外彫刻展に出品するなど活躍を続け、1989年には朝倉文夫賞を、1996年には中原梯二郎賞優秀賞を受賞し、現在では日本の石彫の代表的作家の一人として評価されている。80年代後半から表面を荒く削った御影石を細かく分割し、内部を空洞化し、その表面を元のかたちどおりに組み直す「記憶堆積」シリーズを開始し、その豊かな発想力でこれまでの石彫の概念を変革する試みを重ねてきている。

○野田裕示（のだ・ひろじ）

1952年8月19日和歌山県生まれ。1976年多摩美術大学絵画科油画専攻卒業。絵画を成立させるものは何かを検証する視点から制作を進め、箱型の木枠の中に色のついた紙や布を配置した、純粹な平面ではない面（作家の言葉によれば「半平面」）を持つ作品や、凹凸のあるカンヴァス、折り畳んだカンヴァスを用いた作品など、実験的な表現で注目を集めた。その試行の成果として生み出された美しい色彩と豊かなイメージは、現代を代表する平面の作家として評価されている。2001年には芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞するなど、その評価は着実に高まっている。

○「地殻－潜むかたち1」

この作品は岡本が彫った石彫の平滑な部分（内部）に、野田がのびやかな線や幾何学的文様を描いた共同制作で、1996年度の愛知県美術館のテーマ展でも展示された作品である。このような共同制作はきわめて珍しいが、この作品はそれぞれの個性を失うことなく、彫刻と絵画がひとつに融合し、古代の洞窟壁画を思い起こさせるものとなった。現代における絵画と彫刻の在り方に一石を投じ、きわめて高い評価を得て、発表当時、新聞各紙の文化欄でもこぞって紹介された。

○三沢厚彦（みさわ・あつひこ）

1961年京都府生まれ。樟（クスノキ）を伝統的な手法で掘り出した動物表現で国内外の注目を集めているアーティスト。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻を修了した後、2000年〈Animals〉シリーズの制作を始め、翌01年には第20回平櫛田中賞を受賞。07年に「三沢厚彦 Animals+」展が全国の美術館を巡回し、幅広いファンからの支持を得る。ライオンやゾウといったおなじみの動物をモチーフとしながらも、その彫刻としての存在感は大きく、見る者に強い印象を与えている。「あいちトリエンナーレ2010」では、豊嶋秀樹とのコラボレート企画を予定。

○「Animal 2008-01」

三沢は、樟（クスノキ）を伝統的な手法で彫り出した動物像〈Animals〉シリーズで高く評価され、01年に第20回平櫛田中賞を受賞した。その作品は、ライオンやゾウといった誰もが親しめる動物をモチーフとしている。しかしそれは単に動物を表す再現的な表現ではなく、様々な解釈を可能にする独特の表情が強い印象を与えている。子供から大人までが親しみを覚える彫刻としての存在感は極めて大きい。このライオンも見る者によってはユーモラスであり、獐猛であり、また時には悲しげであるような、さまざまな姿を見せている。